



# わかば

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

2015年・平成27年度



## 学芸会プログラム



日時:12月19日(土)12:00~15:15

ポートランド日本人学校

待ちに待った恒例の学芸会が、ポートランド日本人学校で開催されます。限られた時間の中での練習ですが、子ども達は張り切って演技に磨きをかけています。普段とは異なる一面やすばらしい表現力が見られます。師走のご多用の中とは思いますが、是非ご来場くださいますようご案内申し上げます。

No.	開始予定時刻	学 年	発 表 題 名
	12:00		開会の言葉
			来賓挨拶
1	12:05	小学部6年	朗読と歌 『幸せになる30の方法』
		(幕間)	ビデオによる一年間の行事紹介
2	12:20	幼稚園	ダンス 『にんじゃりばんばん・ニンニンジャー』
		(幕間)	教育委員長挨拶
3	12:35	小学部5年	歌 『5年生の歌』
		(幕間)	ビデオによる一年間の行事紹介
4	12:50	中学部2年	劇 『さるかに合戦』
		(幕間)	校長挨拶
5	13:05	小学部1年	歌 『日本のけんめいおぼえよう』
		(幕間)	ビデオによる一年間の行事紹介
6	13:20	高等部1年	劇 『桃太郎・ラプンツェル』
		(幕間)	リフレッシュ体操
7	13:35	小学部4年	朗読 『夢』
		(幕間)	サンタクロースプレゼント
8	14:05	小学部2年	歌とダンス 『風も雪もともだちだ 他』
		(幕間)	ビデオによる一年間の行事紹介
9	14:20	中学部1年	劇 『FROZEN』
		(幕間)	ビデオによる一年間の行事紹介
10	14:35	小学部3年	語り 『三年とうげ』
11	14:50	中学部3年	歌 『手紙 ~拝啓十五の君へ~』
12	15:05	高等部2・3年	劇 『英雄たちの誕生日会』
	15:15		閉会の言葉

# 学芸会舞台練習に伴う校時の変更について!

学芸会まで、あと4週間です。各学年の練習にも力が入ってきました。12月5日(土)には第1回舞台練習を、12月12日(土)には第2回舞台練習(リハーサル)を行います。つきましては、その両日とも授業時間を確保する為に特別時間割(6時間授業)を実施致します。



特に、遅刻・早退・欠課となるご家庭はご留意願います。

## 【12月5日(土)および12月12日(土)の日程・校時変更について】

	時 間	前 半	後 半
ホームルーム	9:00~9:10		
1時間目	9:10~9:55	小学部 6年 9:10~	小学部 5年 9:33~
2時間目	10:00~10:45	中学部 2年 10:00~	小学部 1年 10:23~
中 休 み	10:45~11:00	幼 稚 部 10:45~	
3時間目	11:00~11:45	高等部 1年 11:07~	小学部 4年 11:30~
昼 休 み	11:45~12:35		
4時間目	12:35~13:20	小学部 2年 12:35~	中学部 1年 12:58~
5時間目	13:25~14:10	小学部 3年 13:25~	中学部 3年 13:48~
6時間目	14:15~15:00	高等部 2.3年 14:15~	
ホームルーム	15:00~15:15		

## 児童生徒の作品より

「盆土産」を読んで

中学部2年2組

名 木 希 美

私は「盆土産」を読んで、自分は本当に恵まれているんだな、と実感しました。

私たちは、たくさんの情報や物に囲まれて生活しています。エビフライも、身の回りにある食べ物の一つです。でも、この作品に登場する人々にとって、エビフライというのは今まで見たことも食べたこともない未知の食べ物なのです。父親がお土産に買ってきてくれた六匹のエビフライは小エビしか見たことのない主人公にとって、さぞかし特別なものだったことでしょう。

この物語で一番感動したのは、父親が故郷の家族の元へ、六匹の冷凍のエビフライを大事に持ち帰ってくる場面です。当時、とても珍しかった冷凍食品を東京土産として、田舎の家族のために、溶かさないようにドライアイスを寝る間も惜しんで取り替えながら、汽車に揺られて帰ってきた父親の心境に胸を打たれました。

この物語に出てくる家族は、とても裕福な家庭とは言えません。一年に数回しか帰ってくるのでない父親が、一生懸命貯めたお金で買ってきてくれたエビフライ。出稼ぎで、仕送りを続けながらも家族のために、父親はエビフライ六匹を大事に持って帰ってきてくれました。

私たちにとっては全く珍しくないエビフライですが、この家族はとても喜んで、父親に感謝しています。感謝する心を持つというのは、とても大切なことです。しかし、私たちが父親からお土産にエビフライをもらったらきっと「えー、こんなもの」とか、「もっといいものがよかったな。」などと言い、あまり有難味を感じないと思います。いついかなる時、いかなる状況でも相手を思いやる気持ちを持ち続けているべきだと、この物語は私に教えてくれました。

もらったもの、してもらったことが、どんなにささいなものだったとしても、感謝する心を持ち、相手を思いやってこれからは生きていこうと思います。